

### ●21L容量<sup>\*1</sup>のラゲッジボックスの設置を可能とした専用設計フレーム

タンデム走行時、パッセンジャー足回りの快適性のためには、リアカウルの幅は小さい方が有利ですが、一方、大きな収納スペースを確保するためには、リアカウル幅は大きい方が有利です。

これらの相反する魅力を両立するため、フレームを専用設計し、リアカウルの最大幅を450mmに抑えながらも、21L容量のラゲッジボックスを成立させ、フルフェイスヘルメット1個<sup>\*2</sup>の収納を可能としました。

また、ラゲッジボックス内には、便利なラゲッジライトとアクセサリースocketも設定しました。

※1: Honda調べ ※2: ヘルメット形状・大きさによっては入らない場合があります。



### ●アドベンチャーのテイストと機能を両立したスキッドプレート

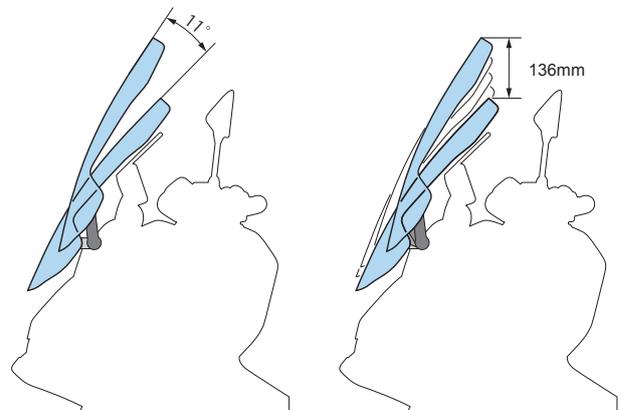
アドベンチャーモデルに多く採用されている、スキッドプレートを装備。このスキッドプレートは、飛び石などによるエンジンや車体へのダメージを最小限に抑えることはもとより、アドベンチャーのテイストを引き立てます。



### ●ライダーの好みで5段階に調整可能なリンク式ウインドスクリーン

5段階に高さや角度を変更できるウインドスクリーンを装備。スクリーンステーにリンク式を採用し、高さと同時に角度の変更も可能としました。スクリーンのポジション変更には工具が不要で、手動で行えます。これにより、速度域の高い高速道路などでは防風を重視した高いポジションに、市街地ではスタイリングを重視した低いポジションなど、ライダーの好みのポジションへの調整が簡単に行えるようにしました。

※ウインドスクリーンの調整は停車時に行ってください。



※写真は輸出仕様車です。